



平成 22 年 5 月 14 日

各 位

会 社 名 太陽毛絲紡績株式会社
グリーンシート銘柄 オーディナリー
コード番号 3211
本社所在地 埼玉県川口市上青木 5-5-9
問い合わせ先 責任者役職名 取締役管理本部長
山中 庸
TEL (048)265-2414

平成 22 年 9 月期特別損失の計上および中間(連結・単独)
業績予想との差異・通期(連結・単独)業績予想の修正について

平成 22 年 9 月期(平成 21 年 10 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日)中間決算において、特別損失を計上いたしましたことをお知らせいたします。また、平成 21 年 11 月 19 日付当社「平成 21 年 9 月期決算短信」および平成 22 年 2 月 9 日付当社「平成 22 年 9 月期第 1 四半期決算短信(連結)」にて発表いたしました平成 22 年 9 月期中間および通期業績予想を下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

1. 平成 22 年 9 月期 連結業績予想の修正等

(1) 中間期 (平成 21 年 10 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回予想 (A)	370	3	△7	△17
今回修正 (B)	293	△17	△38	△56
増減額 (B-A)	△76	△20	△31	△39
増減率	△20.7%	-%	-%	-%

(2) 修正理由

今中間期における経営環境は、個人消費低迷の影響を強く受けるなか、消費者の低価格・節約志向が高まったことにより、百貨店や量販店の売上高下落は止まらず依然として厳しい状況が続きました。このようななか、当社グループは業務の効率的な運営を図り、積極的な経費削減を進めると共に、多様化する顧客の要望に対処しながら、企業資質を有効活用した商品開発を行なっておりましたが、売上高、営業利益、経常利益とも当初計画を下回る結果となりました。なお、資産の健全化の観点から、たな卸資産評価損 5 百万円、緊急雇用安定のための雇用調整助成金制度を利用した会社休業に伴う休業費用損 7 百万円を特別損失に計上いたしました。また、過年度法人税等の修正により 6 百万円計上いたしました結果、中間純利益も当初計画を下回る結果となりました。

(3) 通期（平成 21 年 10 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日）

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	850	65	24	15
今回修正 (B)	850	58	17	2
増減額 (B-A)	—	△7	△7	△13
増減率	—%	△10.8%	△29.2%	△86.7%

(4) 修正理由

今後の日本経済は、未だ先行き不安材料も払拭出来ない厳しい状況が続いております。このような経営環境のなか、通期予想といたしまして、売上高は、850 百万円(当初予想と同額)を見込んでおります。営業利益、経常利益および当期純利益につきましては、経営の効率化と共に商品戦略と営業体制の整備を引続き実施することにより、営業利益 58 百万円(当初予想比:7 百万円の減少)、経常利益 17 百万円(当初予想比:7 百万円の減少)、当期純利益 2 百万円(当初予想比:13 百万円の減少)を見込んでおります。

(5) ご参考:前期の実績（平成 20 年 10 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日）

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
中間期(20/10～21/3)	379	△6	△28	△41
通期(20/10～21/9)	806	32	△10	△44

2. 平成 22 年 9 月期 単独業績予想の修正等

(1) 中間期（平成 21 年 10 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回予想 (A)	270	0	△10	△20
今回修正 (B)	258	△7	△25	△42
増減額 (B-A)	△11	△7	△15	△22
増減率	△4.2%	—%	—%	—%

(2) 修正理由

今中間期における経営環境は、個人消費低迷の影響を強く受けるなか、消費者の低価格・節約志向が高まったことにより、百貨店や量販店の売上高下落は止まらず依然として厳しい状況が続きました。このようななか、当社は業務の効率的な運営を図り、積極的な経費削減を進めると共に、多様化する顧客の要望に対処しながら、企業資質を有効活用した商品開発を行なってまいりましたが、売上高、営業利益、経常利益とも当初計画を下回る結果となりました。なお、資産の健全化の観点から、たな卸資産評価損 5 百万円、緊急雇用安定のための雇用調整助成金制度を利用した会社休業に伴う休業費用損 3 百万円を特別損失に計上いたしました。また、過年度法人税等の修正により6百万円計上いたしました結果、中間純利益も当初計画を下回る結果となりました。

(3) 通期 (平成 21 年 10 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	750	60	20	11
今回修正 (B)	750	55	15	0
増減額 (B-A)	—	△5	△5	△11
増減率	—%	△8.3%	△25.0%	△100.0%

(4) 修正理由

今後の日本経済は、未だ先行き不安材料も払拭出来ない厳しい状況が続いております。このような経営環境のなか、通期予想といたしまして、売上高は、750 百万円(当初予想と同額)を見込んでおります。営業利益、経常利益および当期純利益につきましては、経営の効率化と共に商品戦略と営業体制の整備を引続き実施することにより、営業利益 55 百万円(当初予想比:5 百万円の減少)、経常利益 15 百万円(当初予想比:5 百万円の減少)、当期純利益 0 百万円(当初予想比:11 百万円の減少)を見込んでおります。

(5) ご参考:前期の実績(平成 20 年 10 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
中間期(20/10～21/3)	357	7	△13	△26
通期(20/10～21/9)	748	43	2	△29

以上